



2011年 每日新聞社

【毎日新聞 2010年1月～12月連載】

歳月四部作について

歳月四部作とは、長い歳月は不幸や災厄を逆の何かに変化させ得るというテーマを扱った下記の四つの宮本作品を指す。

発酵食品をテーマに、時間をかけて醸成していくものを表現した『にぎやかな天地』(2005年 中央公論新社刊)、2人の青年と戦災孤児たちの固い絆を描いた『骸骨ビルの庭』(2009年 講談社刊)、人生の大きな流れと本当の意味での宝探しを模索する『三千枚の金貨』(2010年 光文社刊)、そして『三十光年の星たち』。

最初に執筆された『にぎやかな天地』から『三十光年の星たち』まで約6年間で完結した。



人は変われる

「働いて働きぬく。叱られて叱られて叱られ続ける。このふたつのうちどちらかを選べば、人間は良く変われる」という佐伯の言葉が胸に響きました。幸い状況を耐えぬいた先にある自分の未来。三十年後を語れよう前進していくという気持ちになりました。